

令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立本庄小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

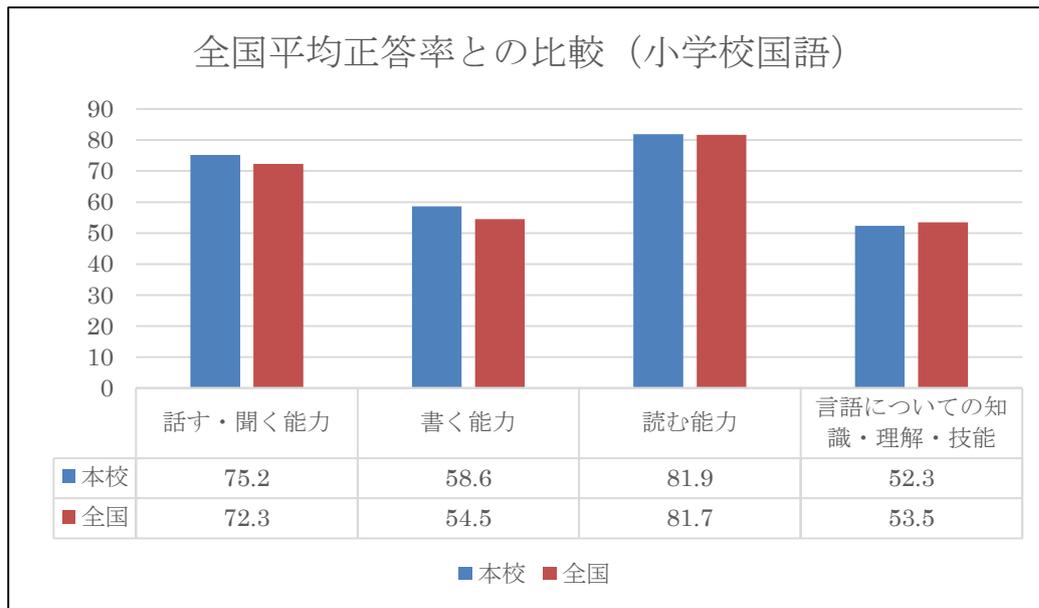
児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語・算数への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語(数学、英語は中学3年生)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

4領域のうち3領域で全国平均正答率を上回った。全体の分布を見ると、下位・中位の児童と上位の児童で若干の偏りが見られる。無回答率は、すべての問題で全国平均よりも低い。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「書くこと」については、全国平均を4ポイント以上も上回った。記述式の問題も全国平均と比べると、考えた理由を明らかにしながら、目的に応じて文章を書くことができた児童が多かった。また、無回答率が低いことから、意欲的に取り組む姿勢が育っていることが分かる。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均を下回った。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域で根幹をなすのが言葉の力であり、つまずきの多い問題を見ると、語彙力や文脈に合わせて漢字を正しく読み書きすることに課題があることが分かった。

(3) 学力向上のための取り組み

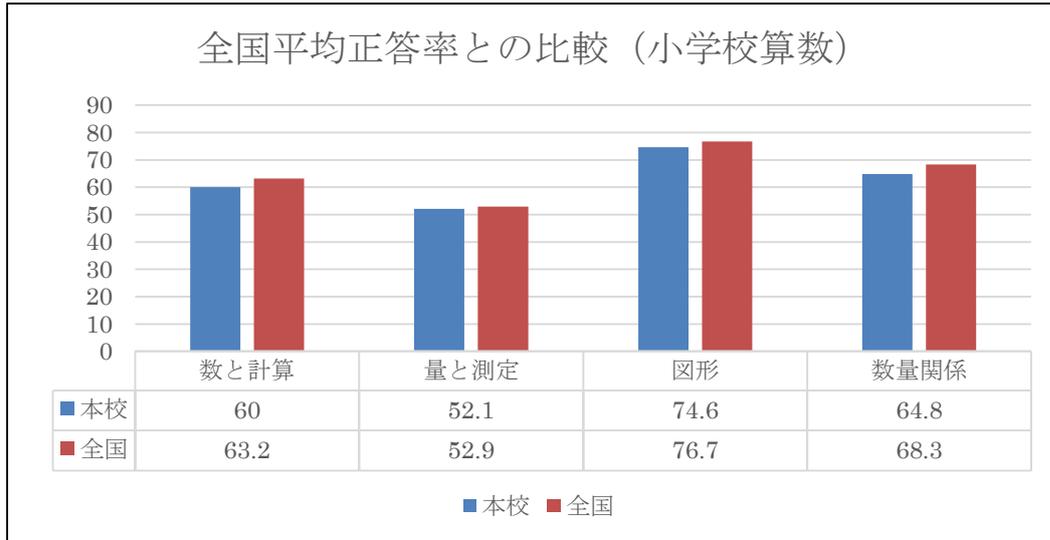
【学校では】

- 朝のパワーアップタイムを活用し、速読や速写を行い、速く正確に読む力を高めます。
- 同音異義語に注意して、漢字を文中で正しく使う指導を工夫します。
- 目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く指導をします。
- すべての教科で、授業の振り返りや自分の考えを書く時間を設定し、書くことの習慣化を図ります。

【ご家庭では】

- まずは音読が基本です。音読を毎日聞いてあげましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- お子さんと会話を楽しみましょう。聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話しましょう。共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流しましょう。
- 読書のジャンルを広げてあげましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

2 算数



(1) 結果

全領域で全国平均よりも下回っていた。特に「数と計算」「数量関係」の領域で全国平均を3ポイントほど下回っている。全体の分布を見ると、なだらかな曲線を描いているが、上位の児童が少なく、低・中位の児童がやや多い傾向にある。無回答率は、全国平均よりも低い。

(2) 成果と課題

「資料の特徴や傾向を読み取る問題」については、3問ともすべて全国平均を上回っていた。目的に応じて資料から必要な情報を抜き取って、判断したり表現したりすることについては一定の成果が見られた。また、国語と同様に無回答率が低いことから、意欲的に取り組む姿勢が育っていることが分かる。

「数学的な考え方」(考え方)、「数量や図形に関する知識・理解」(知識・理解)、「数量や図形に関する技能」(技能)の3つの観点別で見ると、「考え方」に比べ、「知識・理解」「技能」について項目についての正答率が低い。「数と計算」「数量関係」領域別の結果と関連付けてみると、四則計算の定着と数や式の意味理解に課題があると言える。算数の授業においては、基礎・基本の定着を図りながら、活用する力を育てていく必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 朝のパワーアップタイムを活用し、四則計算を繰り返し、速く正確に計算をする力を高めます。
- 授業では、式を立てて答えを導き出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、図や式と関連付けて考えさせたりします。
- 中・高学年においては、全学級でTT少人数指導（2人態勢の授業）を行い、全体指導と個別の指導の役割分担をした授業や1クラスを2つに分けた少人数による授業を展開します。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、解くことができたのか、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そして、お子さんにたくさん励ましや称賛の言葉をかけましょう。
- 算数好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせるのが一番です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし数えでかけ算」「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で割合」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものが意外とあります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査（※している、どちらかといえばしていると答えた子供の割合）

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	94.4	95.3
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	83.1	81.4
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	91.5	91.6
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしますか	74.7	77.4
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	78.9	79.0
学校のきまりを守っていますか。	94.4	92.3
人が困っているときは、進んで助けていますか。	97.2	87.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	97.2	97.1

朝食・起床・就寝については全国平均程度であった。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムが概ね整っているといえる。お家に帰って、学校の出来事を話す子供が全国平均と比べると少ない。挑戦心や規範意識については、全国平均程度、もしくはそれを上回った。困っている友達を進んで助けようとする子供は、全国平均を10ポイント程度上回った。このことより、ルールを守ろうとする中で、友達と助け合いながら活動していることが伺える。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	67.6	71.5
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。 「3時間以上」	8.5	12.4
「2時間以上、3時間より少ない」	15.5	16.9
「1時間以上、2時間より少ない」	29.6	36.8
「30分以上、1時間より少ない」	35.2	24.1
「30分より少ない」	7.0	7.6
「全くしない」	4.2	2.3

家庭学習については計画性、時間と共に全国平均と比べ、低い結果となった。1時間未満の児童が4割近くおり、中には全く家庭学習をしていない児童もいた。かなり個人差が見られるので、家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するようにしたい。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「読み」「書き」「計算」を基本に宿題を出します。自主学習（自学）についても『自学がんばり週間』を設定し、お手本になる自学ノートを掲示したり、表彰をしたりして啓発を図っています。高学年・中学年では定着しつつあるので、少しずつ質を上げながら、広がっていきます。
- 2学期より朝の学級の時間を伸ばし、朝の読書の時間や朝の学級の時間を作ります。読書時間の確保はもちろん、学級のルール作りや主体的な当番活動や係活動の時間を充実させます。

【ご家庭では】

- 「早寝」、「早起き」、「朝ご飯」が基本です。規則正しい生活をして、家庭学習を習慣化させましょう。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まると思います。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましましょう。